

## 令和元年度第2回広島県県営林管理経営評価委員会における委員の質問・意見（概要）

- 1 日 時 令和2年3月17日（火） 14時00分～16時30分
- 2 場 所 広島市中区基町10-52 県庁本館1階102会議室
- 3 議 案 第1号議案：令和2年度県営林年度実施計画（案）について  
第1号議案について審議の結果，令和2年度県営林年度実施計画については，  
諮問のとおり承認された。

### 4 委員からの主な質問・意見（○質問 ●回答 ◎意見）

#### （1）第1号議案：令和2年度県営林年度実施計画（案）について

- 令和2年度年度実施計画の主な取組の中で，特に課題として捉えているものはあるか。
- 主な取組の中では，事業地の確保が特に重要となると考えている。利用間伐事業では，分収割合の変更を進める必要があるため，財団と連携して事業候補地を選定し，土地所有者への交渉を進めてまいりたい。プラン書の内容を充実させ，土地所有者の理解を促し，候補地を確保したい。
- 一括販売のメリットは何か。
- 一括販売は，材を買い取る側としては，大量の素材を一括して取り扱うことにより，価格交渉力が向上し，高く売れるなどのメリットがある。  
売る側としては，仕分け手間が不要となるため，コストの削減や，固定価格であるため安定しているといったメリットがある。
- 令和元年度の木材販売実績について，バイオマス材の現場渡しが増加した理由は何か。
- バイオマス材は，需要が多く，売れている状況にある。バイオマス材については，一定量は委託事業に含めているが，それを超えるものは，間伐業務を請け負った業者に積極的に販売しており，バイオマス材の現場渡しが増加した。
- 令和元年度の木材販売実績で4m材の販売単価が有利な理由は何か。
- 3m材は直材の単価が高いが，形質が悪ければ単価は下がる。一方で4m材は，形質が悪くても2m材を2本にして合板などに活用できるため，単価が比較的安定している。特に，山で形質を仕分けずに集出荷施設「一括販売」する方法においては，4m材の方が有利になっている。
- ◎ 平成29年・30年度利用間伐事業における販売単価について，山土場換算したことで現状が良く分かった。また，一括販売など既存集出荷施設に集中的に販売することにより単価が改善されたことも，よく分かった。

(2) 第2期県営林中期管理計画の対応状況について

- ◎ 既に民間事業者では先進技術を導入しており、色々なデータもあると思ので、データを収集され、効果を参考にして、県営林でもドローンなどの先進技術の導入を積極的に検討していただきたい。
- ◎ 森林総合研究所が、林齢や間伐強度などを設定すると収穫予想をシミュレーションするシステム「ライクス (LYCS)」を開発している。森林総合研究所に協力してもらって、シミュレーションしてもらうこともあり得る。検討してみてもどうか。
- ◎ ドローンで岩石地や不成績地とかの林地情報を把握するとともに、樹高メッシュ図で成長を管理し、実行区域を絞るなど、実践レベルで先進技術を活用していただきたい。
- ◎ 施業の集約化や間伐、路網の整備、相互利用など、国有林、県営林、民有林との連携し、実施できる地区があれば、連携を推進したい。